

西成瀬歴史散歩

～ミニ～

Vol.2 令和3年 10月発行

西成瀬地区交流センター運営協議会

〒019-0711 増田町荻袋字真当 72

TEL : 45-2657 FAX : 45-4092

今回のテーマ：

吉乃鉱山は「すごい！」がいっぱい



吉乃鉱山は享保5年（1720）から昭和32年（1957）の閉山まで、約240年の歴史を持つ鉱山です。かつて日本の主要鉱山としても名を知られた吉乃鉱山は、増田町や西成瀬の発展にも大きな影響を与えてきました。今回は、そんな吉乃鉱山の「すごいところ」に注目してご紹介いたします。

◆増田に駅があった!?最盛期の鉱山設備がすごい!

大正4年（1915）、鉱山最大の鉱量を有する「熊ノ沢鉱床」^{くまのさわこうしょう}の発見と、銅の需要の伸びにより、吉乃鉱山は急速に発展し最盛期を迎えました。

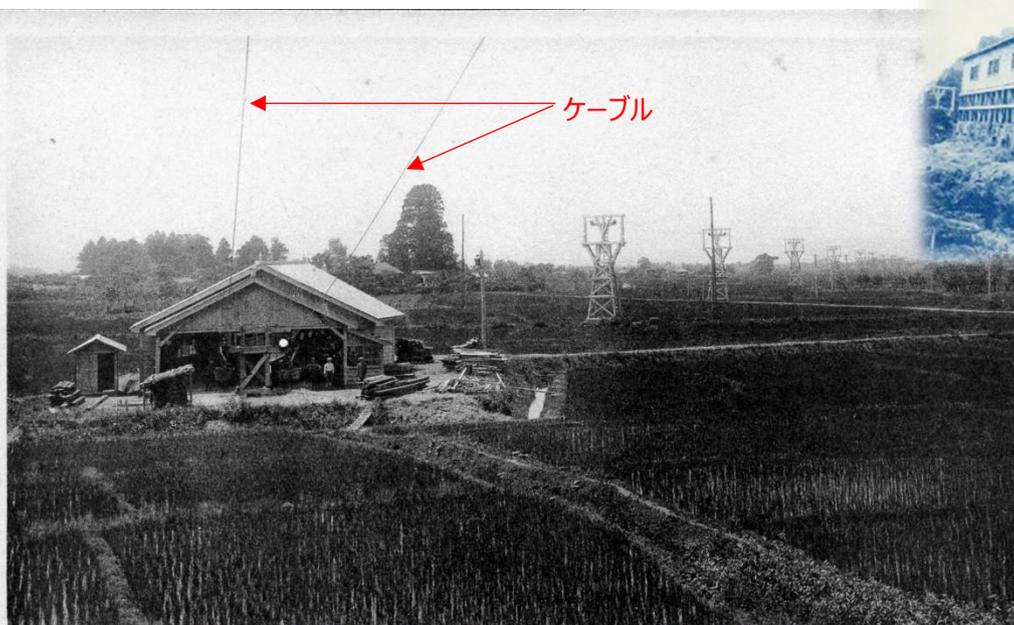
当時、東洋一と称された選鉱場^{せんこうじょう}（採掘した鉱石を選別する施設）や発電所、そして

大正6年（1917）頃には、鉱石を運搬する架空索道^{かくうさくどう}（鉄索^{てっさく}）も作られました。

架空索道とは、空中に架けたケーブルに運搬機をつるし輸送を行う、ロープウェイのような設備です。選鉱場で選別された鉱石は「索道吉乃駅」から「索道増田駅」（現在の新町のあたりにあった）を經由し、「索道十文字駅」へ。そして、十文字駅から^{はっせいせいれんじょ}発盛精錬所（現八峰町）へ貨車移送され、金属に加工されていました。

※吉乃鉱山の主な産出物は黒鉱、黄銅鉱、黄鉄鉱など

※索道吉野駅～索道十文字駅はおよそ6.4km



吉乃 山 嶺 道 索 増 田 驛



「吉乃鉱山絵はがき」より索道吉乃駅（↑）と索道増田駅（←）田んぼの中の駅と点々と立つ支柱、そして駅から空に伸びるケーブルが写っています。

裏へ続く

鉾山^秘メモ 1: どうして吉「乃」鉾山?

吉乃鉾山の名称は何度か変更されています。当初は「吉野鉾山」、次に「増田鉾山」と改称し、その後大正4年の「大日本鉾業株式会社」の設立と同時に「吉乃鉾山」に統一されました。なぜ「吉乃」という字が使われたかという点、以前より山形県に同名の「吉野鉾山」が存在したため、区別のために改名したそうです。

◆吉野に鉾山街誕生!地域に与えた影響がすごい!

吉乃鉾山には、全国から鉾山労働者が集まりました。鉾山職員、作業員やその家族、関連業者に地元住民など、最盛期には9000人を超える人々がひしめき合っていたそうです。

当時の吉野には鉾夫長屋という集合住宅や、病院、食料や衣類、日用品などの各商店、食堂に共同浴場、さらには劇場まであり、小さな集落はまるで都会のような賑わいを見せていました。

こうした人や物の流れは増田や十文字にも及び、同時期に建てられた「増田の内蔵」も多く確認されていることから、鉾山の活気と好景気が地域へもたらした影響の大きさが想像できます。

この頃、児童が急激に増えたため西成瀬小学校に収容できず、鉾山の施設を借りて「分教場」が設置されました。その後、西成瀬小学校を増築して分教場と統合。昭和の始めには西成瀬地区だけでもおよそ650人もの児童がいたと記録されています。

鉾山の売れ筋商品

米や野菜類、魚などの食料品はもちろん、お酒や菓子類、衣類、地下足袋、ゴム靴、たばこなどもよく売っていたようです。



- ・たばこはいつも売上高県南第一位!
- ・ビスケット四貫目入(=約15kg)200箱が1ヶ月で売れた!
- ・酒は月末だけで二斗樽(=約36ℓ)30本販売!

…なんて記録もあるそうですよ。



鉾山^秘メモ 2: 吉乃鉾山の水力発電所は現役稼働中!

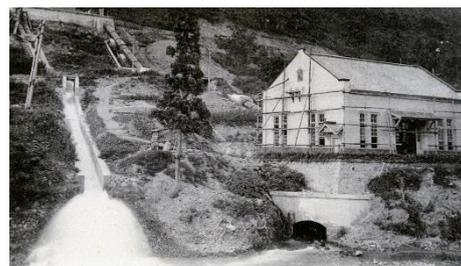
水力発電所というと、国道342号沿いの真人発電所を思い浮かべる方もいるかもしれませんが。

しかし、吉乃鉾山の発電所として大正7年(1918)に作られたのは、

だいらはつでんしょ
東成瀬村田子内にある「平良発電所」なのです。

そしてこちらの平良発電所、現在は東北電気自然エネルギー株式会社の所有施設となっていますが現役で稼働中です。

100年以上も稼働し続けているなんてすごいですよね!



↑ 当時の発電所

- 吉乃鉾山についてもっと詳しく知りたい方は、西成瀬地区交流センター内「吉乃鉾山展」や各資料をご活用ください。